

図書館だより 第28号



11月25日(日) 富山短期大学の准教授であり、日本ペンクラブ会員でもある陶智子さんの講演会が「八尾ふらっと館」で開かれました。演題は「本を書くということ」。本が出版されるまでのエピソードや執筆活動などについて語られました。

臨時休館のお知らせ

アスベスト除去工事のため、平成20年2月18日(月)から6月下旬まで、図書館本館・本館の館内各施設を休館します。
ご不便をおかけしますが、よろしくお願いいたします。
詳しくは、2Pをご覧ください。

目次

臨時休館について・リサイクル広場について	2
先進図書館見学記	3
いちおしライブラリー 第16回 「格差社会を考える本」	5
岩倉政治文庫の資料 2	7
レファレンスあれこれ	8

お知らせ

図書館本館のアスベスト除去工事に伴う休館について

アスベスト除去工事のため、右のとおり図書館本館及び本館の館内各施設を休館します。

この間、貸出業務はとやま市民交流館図書サービスコーナー（C i C3階）や大沢野・大山・八尾・婦中・山田・細入の各地域館と各分館にて行います。また、自動車文庫は通常どおり運行します。

休館までのご利用については、アスベストが浮遊していないことを確認していますので、健康面での心配はありません。

なお、本館ブックポストは、西側玄関のブックポストのみ返却可能です。

ご不便をおかけしますが、よろしくお願いいたします。



記

休館期間 平成20年2月18日(月)～6月下旬
期日及び移転先等詳細については、「広報とやま2月5日号」及び館内掲示などによりご案内します。



リサイクル広場について

図書館で除籍手続を経て、不用となった図書や雑誌を、市民の皆様に再利用してもらうための「図書館リサイクル広場」は、毎年好評を得ている事業です。

しかし、今年度4月から本館の月曜、祝日開館に伴い、会場の確保が困難となり、地域館の4会場に資料を分散して開催することになりました。

大山図書館は8月18日(土)・19日(日)、大沢野図書館・婦中図書館は11月3日(祝)、八尾図書館ほんの森は12月8日(土)に開催しましたが、4会場合わせて約1300人の市民の皆様に来ていただき、盛況のうちに終わりました。

簡単なアンケートをとった結果、各会場には、さまざまな地域から来場されたことが分かり、富山地域の皆様にも各地域館を知ってもらう良い機会ともなりました。来年度も地域館開催を予定しています。

(婦中図書館 黒田)



(大沢野会場)



(婦中会場)



(八尾会場)

先進図書館見学記

静岡市立御幸町図書館

1. 図書館の概要

静岡市は、人口約72万の政令都市です。

静岡市立御幸町図書館は、静岡市立図書館の地域館の一つで、静岡市最大の繁華街の再開発ビル4・5階にあります。

御幸町図書館の看板は、「ビジネス支援サービス」と「多言語（多文化）サービス」で、全国の図書館から注目を集めています。



<図書館全景>

2. 図書館の特徴

(1) ビジネス支援サービス

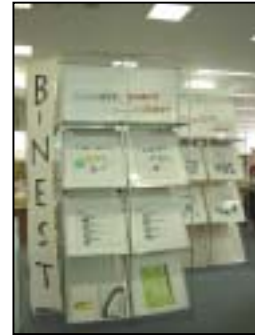
御幸町図書館では、ビジネスに役立つ図書・雑誌・データベースなどを重点的に収集し、ビジネス情報を誰にとっても身近にすることを目指しています。

入口に立つとすぐに目に入るのが手作りのパネルで、起業情報や経営情報が提供されています。

また、「M&A」「特許・商標」「就職活動」などのタイトルの躍るPOP（目に留まるように描かれた文字）が並び、新聞・雑誌の切り抜きやブックリストと一緒に、数十冊の本が表紙を見せて展示してありました。

6階には、産学交流センターがあり、図書館と緊密に連携しています。産学交流センターに起業や経営などの相談に来た利用者が職員の判断により、図書館に案内されることも多いそうです。

この他にも、マンツーマンで行われる「データベース講習会」など、画期的な試みが行われています。



<パネルによる案内・展示>

(2) 多言語（多文化）サービス

静岡市は、外国人が住民の約1.2%を占める多文化の町です。御幸町図書館では、外国人や、異文化に関心をもつ市民のために、英語・中国語・ポルトガル語等の図書・雑誌・CDや、日本語教育の図書を揃えています。

また、外国人ボランティアによる読み聞かせ会が行われています。

3. 基礎データ

・奉仕人口	721,620人（平成18年4月1日）
・複単別	複合施設（ペガサートビル『ビネスト』内4階・5階部分）
・延床面積	2,074.17㎡
・蔵書数	117,586冊
・収蔵能力	180,000冊
・閲覧席	185席
・駐車場	45台（ペガサートビル共用、200円/30分）
・建設費	2,538,673千円（リース含む）

（大山図書館 牧田）



那珂市立図書館

1. 図書館の概要

平成 17 年 1 月に那珂（なか）町と瓜連（うりづら）町が合併して茨城県那珂市になりました。

もともと両町には公民館の図書コーナーしかなかったものの、町民の利用率はきわめて高かったそうです。

平成 18 年 10 月に待望の新規図書館としてオープンしました。



< 図書館全景 >

2. 図書館の特徴

(1) いつでも気軽に立ち寄れる図書館

建物は吹き抜けで、窓が大きく、明るいイメージになっています。

一番の特徴は手のひら認証システムで、これは図書利用カードの代わりに、手のひらの静脈により本人確認を行い、貸出を行うことができます。

これにより図書利用カードを常時携帯する必要がなくなり、ふと気軽に図書館に立ち寄ることがしやすくなります。



< 手のひら認証システム >

(2) IC タグと手のひら認証システムによるカードレス運用

まず IC 読み取り台に本をまとめて置き、生年月日を入力し、手のひらをかざし静脈認証を行うことで、貸出の手続きが完了します。

IC タグ活用による業務効率化に加えて、利用者側も簡単かつ迅速に図書館サービスを受けることができます。

登録時に「図書利用 IC カード」を作成するか、「手のひら認証」による登録を行うか、どちらかを選ぶ択一式で、利用者の約 7 割が手のひら認証を選択しているそうです。

(3) その他のサービス

生後 4 ヶ月の幼児を対象としたブックスタートや、対面朗読のサービスを行っているほか、多目的トイレや授乳室も完備しています。

ビジネス支援については、8 台のマルチメディアパソコンによるインターネットの利用、専用端末機 2 台による商用オンラインデータベース 5 種が常時利用可能になっています。



< 館内の様子 >

3. 基礎データ

・ 奉仕人口	54,545 人
・ 複単別	単独施設
・ 延床面積	3,609.69 m ²
・ 蔵書数	79,727 冊
・ 収蔵能力	開架 15 万冊、書庫 15 万冊
・ 閲覧席	148 席
・ 駐車場	108 台
・ 建設費	1,333,216.5 千円

(大沢野図書館 新保)

いちおしライブラリー 第16回 格差社会を考える本

最近、格差社会という言葉が、テレビや新聞でしきりに取り上げられるようになりました。そのうちの考え方の一つでは、日本は一億総中流社会ではなくなり、貧富の差が拡大し、以前ほど、平等の社会ではなくなったといわれています。

格差社会とは、どんな社会でしょうか。また、格差が広がっているといわれるのは、なぜでしょうか。このような社会を生き抜くために何が必要なのでしょう。

今回は、格差社会について考える本を紹介します。

< 格差社会を探る >



「格差社会 - 何が問題なのか」
橋本 俊詔 / 著 岩波書店
2006

2006年1月に内閣府が、格差の拡大は日本が高齢化したことによる「見かけ上の問題」とする見解を公表しました。それによって、格差は拡大しているのか、あるいは「見かけ」にすぎないのか、といった論争が繰り広げられました。また、「格差の何が悪いのか」「格差が拡大してもよいのではないか」といった考え方もあるようです。

この本では様々なデータを用いて、まず、格差の現状と要因について探ります。また、格差が広がっていく中で、日本社会にどのような変化が起きているかを考えます。最後に、著者自身の格差社会への是正策を具体的に提案しています。



「ワーキングプア - 日本を蝕む病」
NHK スペシャル「ワーキングプア」取材班 / 編
ポプラ社 2007

今日、日本各地では「豊かさ」のすぐ「隣」に「新たな貧困」が生まれ、深く進行しています。どれだけ働いても豊かになれず、働いても報われないワーキングプアの人たちが大勢生まれているといえます。

この本ではワーキングプアから抜け出せず路上生活を続ける都会の若者たち、景気回復から取り残された地域社会で懸命に生きる中小商店主や農家、子どものために睡眠時間を削って二つの仕事をこなす女性たち、年金だけでは暮らしていけず空き缶拾いで日々を送るお年寄り夫婦を直接取材し、その実態を紹介しています。

これらの話からもワーキングプアの厳しい現実がともリアルに伝わってきます。また、この問題は決して、他人事ではなく、ごく普通に暮らしていても、身近な出来事がきっかけでワーキングプアに陥ることがあることを痛切に感じます。



「下流社会 - 新たな階層集団の出現」
三浦 展 / 著 光文社
2005

『下流社会』という言葉は、著者自身が考えた言葉です。下流とは、単に所得が低いということではなく、コミュニケーション能力、生活能力、働く意欲、学び意欲、消費意欲、つまり総じて人生への意欲が低いと

いう意味です。いわゆる団塊ジュニア世代と呼ばれる現代の30代前半を中心とする若い世代が「下流化」の傾向にあります。この若い世代の価値観、生活、消費はどのように変わりつつあるのでしょうか？豊富なデータを用いて、現在の若者たちの姿を分析し、浮きぼりにします。

< 格差社会を生き抜くために >



「下流にならない生き方 - 格差社会の絶対幸福論」真壁昭夫 / 著 講談社
2007

この本は 単に「格差」の問題点を指摘したり、「格差の拡大はよくない」と主張することが目的ではありません。著者はもはや、バブルが崩壊した今の日本の市場経済においては、格差は避けることができないことだと言っています。

これから問われるべきは、もはや国がいかなる政策をあげて格差と対峙するべきかという議論をすることではなく、個人が、一人ひとりの人生に自分自身で責任を持ち、かつ人生に誇りを持って生きていくためには何をすればよいかを真剣に考える必要があると提案しています。



「格差社会で生きのこる23のSTORY」
成美堂出版 / 編・刊
2007

一口に格差といってもさまざまな格差があります。この本では、所得格差だけでなく、仕事格差、教育格差、家族格差、財産格差、地域格差、医療格差などさまざまな格差を取り上げ、その実態に基づいたデータをできる限り掲載し、格差の本質や格差社会の中で何が問題になっているかを探ります。

格差社会の中で希望を持ち、よりよく生きていくために、どのようなことをしたらよいかを提案しています。

また、将来への希望を持つことが難しいといわれる中で、大きな夢に向かう23歳の靴磨き職人や一度はホームレスになったものの求職者支援ビジネスを立ち上げた元サーファー社長を取材し、若者たちに生きる希望を持たせてくれます。



「フリーター・ニートになる前に読む本 - 仕事が見つからない人、仕事が続かない人」
鳥居 徹也 / 著 三笠書房
2005

フリーターやニート、今やよく聞かれる言葉ですが、その違いはわかりますか。

フリーターは、働く意思はあっても正社員としての職を得ていない若者で、15歳~34歳までと年齢制限があります。また、ニートは学校にも会社にも行かない、行けない若者たちです。今、こういった若者たちが増えてきています。

この本には、フリーターやニートという生き方の現実、働くことの意義、よい学校を探す判断基準などについてわかりやすく書いてあります。

卒業後の進路を考える前に是非、親子で読んでほしい本の1冊です。



(婦中図書館 森田)

岩倉政治文庫の資料2



(「稲熱病」が掲載された『知性』昭和14年2月号)

「唯物論研究会」に参加した岩倉は、意欲的に論文を発表し、昭和10年6月には『日本宗教史講話』を白揚社から、昭和12年4月には『仏教論』を三笠書房から、いずれも「巖木勝」の筆名で出版しています。

しかし、この頃すでに日本は戦時色が濃くなり、思想的弾圧が強化されつつありました。こうした中、岩倉は昭和9年、13年の二度にわたり、思想犯として検挙されます。釈放後も自宅での軟禁生活が続き、挫折のながい味を噛みしめつつ、自己の思想と、生まれ育った農村の姿を文学へと昇華すべく、岩倉は懸命に執筆を続けました。

そして昭和14年2月、小説の処女作「稲熱病」を、雑誌『知性』に発表します。

主人公・野木正志は、郷里の農村に農会技術員として赴任しますが、折りしも稲を枯らす「稲熱病」が猛威をふるい、農村は凶作の危機に瀕していました。野木は、農事試験場技師のアドバイスをもち、薬品散布によって、被害を食い止めようと奔走しますが、農民たちの多くは新しい科学技術に懐疑的であったことや、高価な薬品が、ただでさえ困窮していた農村経済を圧迫し始めたことが原因で、結局は芳しくない結果に終わってしまいます。

いったんは失望の淵に立たされた野木でしたが、彼の姿勢に共感し、新しい知識を学ぼうという意欲をもつ、若い農民青年の登場によって、一筋の光明を見出すところで、この作品は終わっています。

のちに岩倉はこの作品について、「原稿は必ず検事の

検閲を受けねばならなかった」ため、「この『稲熱病』も何箇所か、皮肉な指摘をされ書き直した」と述べています。それでも、古い因習にとらわれがちな農民たち、村長と助役の政治的対立など、当時の農村の姿を鮮やかに描き出しており、またそうした旧弊たる体制に、正義感を持って、立ち向かおうとする主人公を対置したことによって、文学作品としての完成度は、非常に高いものになっています。

おそらくは、この主人公・野木の人物像には、岩倉自身の姿も少なからず投影されているものと思われますが、この正義感こそは、岩倉がその後の文学生活を通じて、終生追求し続けるテーマとなったのでした。

さて、この作品が発表されると大きな話題を呼び、同年第9回芥川賞の候補作に選ばれます。惜しくも受賞はなりませんでしたが、久米正雄が選評にて、「(略)結局頭に残ったのは授賞の二篇だった。それに次ぐものは矢張り『稲熱病』か。否此の授賞線の差は極めて僅少」と高く評価したのをはじめ、瀧井孝作、横光利一、佐藤春夫といった、錚々たる選者たちから好評を得たことによって、岩倉は一躍注目をあびる新進作家となりました。それを裏付けるように、同年から相次いで、『文学界』『中央公論』など主要な文芸雑誌に、次々と作品が掲載されるようになり、旺盛な執筆活動が開始されることになったのです。

(本館・館内奉仕係 舟山)



レファレンスあれこれ



Q . 新酒ができた印に酒造会社の軒下につるす「杉玉」について、別名、由来を知りたい。

A . 飛騨古川の「杉玉」の新聞記事を読んだ質問者は、自分の記憶では違った名称であったと話された。

初めに『日本国語大辞典』（小学館 2001）を見ると「杉の葉」の項に、「酒屋の看板としてつるした杉の葉の玉。酒林。」とある。『日本民俗大辞典』（吉川弘文館 1999）の「杉」の項には、「杉の葉は日本酒の醸造時に酒の中に浸し防腐用に使った」とあるが、名称は記載されていない。

『日本酒大事典』（彩光社 1979）には「杉の門」の項に、「酒林（さかばやし）という杉の葉で玉をこしらえて酒店で新酒発売の合図とした。以前は杉の門を建てたという」とあった。次に「酒林」を見ると、「三輪神社から送られた杉の枝を酒屋の軒につるしたのが始まり」とあり、「杉玉」にまつわる一休和尚の歌などの古い書物の文章もいくつか紹介されていた。

また、『日本の酒文化総合事典』（柏書房 2005）の「酒屋の看板」の章によると、名称については「酒林」のほか「酒箒・酒葉・杉葉・杉の丸・杉玉・杉林」など類称が多いとあり、酒林の形の変遷図が載っている。

質問者は「酒林」と覚えていたらしい。これは、江戸初期に現れた酒屋の目印で、杉の葉を束ねて球状に細工をし、軒先に吊り下げたものである。由来には諸説があるが、中国から伝えられたものとする説が多いとある。

平成 20 年 1 月 22 日 富山市立図書館 編集・発行
富山市丸の内 1 丁目 4 - 50 TEL076-432-7272
HP アドレス <http://www.library.toyama.toyama.jp>
E-mail lib-02@library.toyama.toyama.jp

Q . デンマークかスウェーデンで、紫外線防止のため小さい子どもに頭から首まで覆う帽子の着用を義務付ける法律ができたというが、法律名と制定年を確認したい。

A . 質問者は、4~5 年前に日本経済新聞の新聞記事で読んだとのこと。その新聞記事を確認するため、「日経テレコン 2 1」で検索するが見当たらない。

『紫外線から子どもを守る本』（双葉社 2001）『紫外線 Q & A』（シーエムシー出版 2002）や環境に関する資料によると、紫外線対策はアメリカを初め各国で取り組んでいることがわかる。代表的なオーストラリアでは「Sun Smart」と呼ばれる皮膚ガン予防対策が 1980 年代初めからスタートし、子どもたちは質問にある耳や首まで覆う垂れがついた帽子を着用しているが、法律はないようである。県立図書館に尋ねたが当館と同様の結果だった。

そこで、国立国会図書館に調査を依頼した。各種新聞・雑誌記事等、デンマークやスウェーデンの法令サイトも調査したが見当たらないこと、外国の文献にはこのような法令を持つ国はほとんどないという記述があるとの回答が届いた。

質問者の要望もあり、スウェーデンとデンマークの在日大使館にも照会したが、該当する法令はないとの回答があり、厚生労働省・環境省からは返答がきていない。

質問者には環境省のホームページと「子供のための紫外線対策協会」のページで紹介されている「諸外国の取り組み」を参考のために案内したが、結果的には該当する法律は特定できなかった事例である。調査は現在も継続中である。

（本館・参考図書室 北山）